

付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ情報

平成27年11月4日～17日に陸奥湾4定点で付着生物(ユウレイボヤ等) ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、表1のとおりで、久栗坂沖で11/4に3.9個/トン、11/17に2.2個/トン、川内沖では11/4に0.8個/トン、11/17に1.6個/トンでしたが、野辺地沖では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2、表1のとおりで、川内沖で11/4に0.8個/トン、久栗坂沖で11/17に0.6個/トンでしたが、野辺地沖では見られませんでした。

キヌマトイガイ(表1)、ネンエキボヤのラーバは見られませんでした。

なお、マボヤラーバが久栗坂沖で11/4に0.6個/トン、川内沖で1.6個/トン見られました。

2 水温の状況

各ブイの11月17日の平均水温は、表2のとおりです。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個/トン				
調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H27.11.4	3.9	0.0	0.0
川内沖	H27.11.4	0.8	0.8	0.0
野辺地沖	H27.11.4	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H27.11.17	2.2	0.6	0.0
川内沖	H27.11.17	1.6	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

3 今後の見込み

ユウレイボヤは、当所試験で9月17日～11月4日の間(稚貝分散時)に各地点から回収した2分目パールネット(写真2)に付着している大きい個体は産卵が終了しているようですが、小さい個体はこれから成長していくものと思われます。

ネンエキボヤも同様に付着しており、これらを室内で飼育するとラーバが発生しています。今後、ラーバが付着して出来たコロニー(群体)が無性生殖(「株分かれ」のように増える)で増加していくものと思われます。

また、オベリアの付着はまだ見られていませんが、数はすくないもののクラゲが出現してきており、春先に付着被害を及ぼす大型のオベリアは、年明け以降にかけて付着していくものと考えられます。

キヌマトイガイ(コメガキ)は、年明け以降にラーバが出現すると思われます。今後のラーバ等の出現動向については、次回(12月上旬発行予定)の情報を参考にしてください。



写真1 ユウレイボヤの浮遊幼生(左)とオベリアのクラゲ(右)



写真2 パールネットに付着したユウレイボヤ、ネンエキボヤ

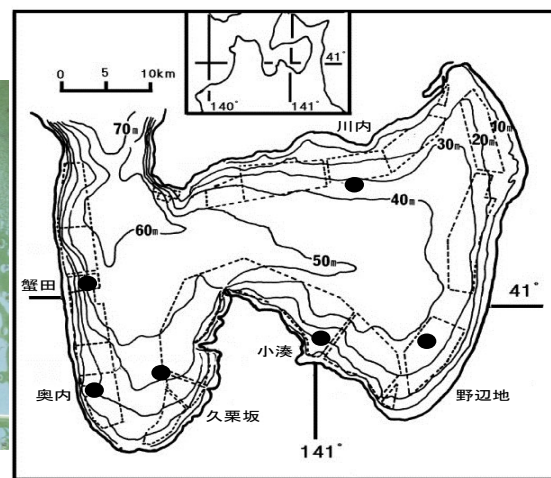


図3 ラーバ調査地点

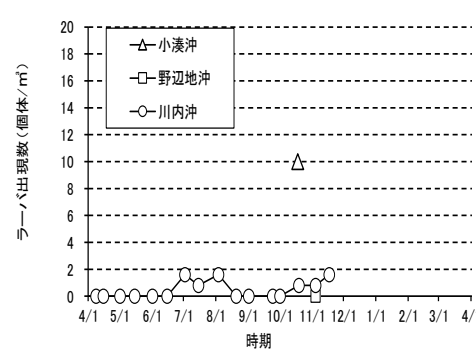
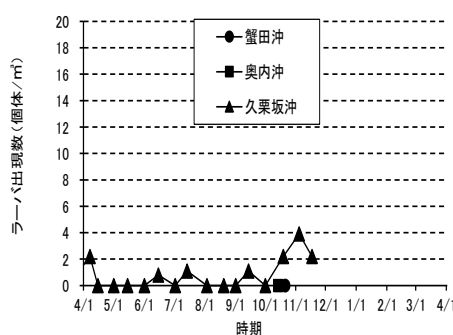


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

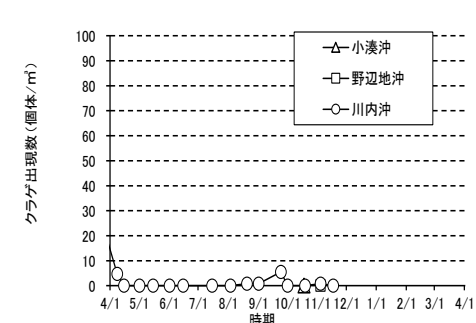
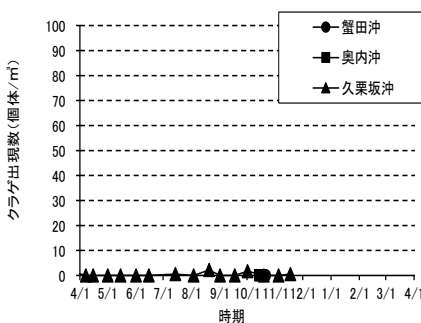


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

表2 各ブイの中層における日平均水温(11/17)

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	16.2	東湾ブイ	14.4
奥内ブイ	15.5	浜奥内ブイ	13.9
青森ブイ	15.5		

※奥内,浜奥内は10m層,他は15m層

